

人権さんだ

8 月号

令和6年(2024)

No. 545

平和を考える

《問い合わせ》

健康福祉部 人権共生推進課

TEL: 559-5148 FAX: 563-7776

E-mail: jinken_u@city.sanda.lg.jp

被爆アオギリ

昭和20年8月6日、爆心地から北東へ約1・3キロメートルの広島市内で被爆したアオギリは、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられました。樹皮が傷跡を包むようにして成長を続け、焦土の中で青々と芽を吹きました。平成27年、三田市は、戦後70年「非戦の誓いを次の世代につなぐ」シンボルとして、この被爆アオギリの種から成長した苗木を「被爆アオギリ二世」として広島市から託され、三田市総合福祉保健センターの西側に植樹しました。



岸田 達男さん

今年には終戦から79年です。「戦争は最大の人権侵害」と言われます。太平洋戦争では、大人も子どもも多くの人々が犠牲になりました。三田市では戦争や核兵器のない平和な世界を築くことを願い、平成元年に「非核平和都市宣言」を行い、以後毎年8月を「平和について考える市民月間」として、「平和を考える市民のつどい」の開催を中心に、市民の皆様の参加のもと平和への取り組みが続けています。今号では、昨年の「平和を考える市民のつどい」にて岸田達男さんが語られた講話を掲載します。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

ぼくは国民学校1年生

岸田 達男さん（90歳）

今日は私の子どもの頃の個人的なお話でございます。

ひとたび戦争が始まりますと戦地の兵隊さんだけではなく、ふるさとの留守家族や一般家庭のだれもが悲惨な思いをします。そのことの一部をお話しし、戦争の凄惨さ、二度と戦争を起こしてはならないということを考えていただければと思います。

学校での生活



私が三田国民学校に入学しましたのは昭和16（1941）年の4月でございます。それまでは尋常小学校でしたが、その年から国民学校と改められました。1年生の2学期末に太平洋戦争が起き、5年生の夏に終戦となりました。6年生を卒業するまでの6年間が国民学校と呼ばれていました。

2年生になりますと運動会は、大人になって戦地でも耐えられる身体となるよう「錬成会」と言い換えられ、行進は隊列を組み「1、2、3、・・・」と軍隊式の号令を

かけた運動会となりました。

3年生になりますと「子どもは小国民」と言われ、教科書に記載の船は「軍艦」に、バスや乗り物は「戦車」などにすり代わり、徹底的に軍国教育をたたき込まれました。1クラスの学童数も増え73人もいましたので、教室内には入りきれず、廊下に机を持ち出して勉強をしました。

食べるものも十分になく、空腹の中での勉強です。勉強と言っても学力を上げるためのものではなく、勤労奉仕や軍国教育を徹底させるための教育です。日本は資源が少ない国でございますから、外交が途切れますと全部輸入がストップします。輸入が止まると金属はもちろん燃料の石油も食料も入ってきません。家庭内の鉄瓶などを供出しました。

4年生の頃には、学校の講堂の床を外して土間に機械を据え、戦闘機の部品などを作る軍需工場に代わり、中学生のお兄さんたちが油まみれになって働いていました。当時のニュースは大本営（軍）の発表だけで、真珠湾攻撃で勝った時には、学童や国防婦人会など町民は旗行列をして喜んでいました。しかし戦況が悪くなっても

「戦艦何隻をやっつけた」というラジオ放送が流れていました。実際には日本軍の被害の方が大きかったようです。国民は嘘の情報を信じていました。

三田への空襲



アメリカ軍による本土空襲が始まりますと都会での生活が危険になり、尼崎市の学童が集団で三田へ疎開してきました。宿舎は三田中学の寮や町内のお寺など、大きな建物のあるところでした。夜になると母が恋しくなると一人が泣きだすと何人もが声をあげて泣きます。引率の先生も本当に大変なことになりました。

食べ物の不足は深刻で、お米は配給となり、お茶碗の中に米粒はわずかで麦や大豆や芋などのほうが多くて、いつもお腹がすいていました。学校では学童たちの勤労奉仕で運動場や空き地を掘り起こし、サツマイモや豆を植えました。

5年生の7月19日に米軍戦闘機が三田に飛来し、機銃掃射がありました。このときが一番恐ろしい思い出として今でも鮮明に記憶しています。当時敵機が近づくと「警戒警報」を示す警察のサイレン

が「ウーウー」と鳴って住民に知らせていました。警報が出ると学童は全員校庭に整列し地区ごとに帰宅してました。

私は校門を出て九鬼邸の付近まで来たとき爆音が激しく聞こえましたので、民家の家のわずかな隙間に頭だけ突っ込んで隠れました。学校の上空付近で戦闘機の機関銃の音が聞こえました。国鉄（JR）三田駅付近の大きな建物が軍需工場と思ったのでしよう。弾丸が当たり、三輪国民学校の学童5人が亡くなりました。そのほか数人が重傷を負いました。ワラ屋根に当たった高次の農家も全焼しました。

終戦



夏休みのときに終戦になりました。この前日に私の弟が亡くなりました。お葬式をしている最中でした。「日本が負けた」という信じられない終戦の知らせがあり、弟の死と重なって本当に大変な1日でございます。

最後になりますが、戦争が起きると男子は国の命令で戦場に送られ、生きるか死ぬかの日々が続きます。内地では敵の爆撃機から爆弾や

今年の

三田市人権を考える会主催

三田幸せプロジェクト 日時：8月17日(土)

～明るい未来へ～

10時～15時30分

全体テーマ「あなたに伝えたい 私のこころ」

手話通訳
要約筆記
一時保育
要予約

焼夷弾などが見境なく落とされ多くの人命が失われます。人々から自由を奪い、不幸にする戦争は絶対してはなりません。80年近く平和が続いているありがたさを感じるこの頃です。

会場	午前の部 (10時～12時)	午後の部 (13時30分～15時30分)
ウッドタウン 市民センター (大集会室)	① 部落差別について考える 「部落問題から学ぶ」 (自分自身のよりよい生き方がし) 岡崎 正文さん (三田市在住)	③ 性と生について考える 「ありのままのあなたがいい」 谷川 彩莉さん (講演家：身体は女性、心は90%男性)
三田市総合福祉 保健センター (多目的ホール)	② 障害について考える 「私たちはどこまでわかっているの？」 ～疑似体験を通して気づこう 知的・発達障害のある人の感じ方～ 三木 尚美さん はあ〜とポケット (さんだ知的障害啓発隊) 代表	④ ハラスメントについて考える 「ハラスメントって何？」 ～加害者にも被害者にも ならないために～ 三谷 文夫さん (社会保険労務士)



- ・どなたでも参加できます。当日、各会場にお越しください。
- ・各会場には駐車場がありますが、台数に限りがあり混雑が予想されますので、できるだけ乗り合わせをするか公共交通機関をご利用ください。
- ・当日、三田市に気象警報(大雨・洪水・暴風など)が発表されている時は中止する場合があります。開催についての情報は市ホームページに掲載します。

- ◆ 申込方法： <https://logoform.jp/form/hyogo-sanda/648688> または右記二次元コードからお申込みください。電話・FAXでのお申込み先は下記問い合わせ先参照
- ◆ 申込締切： 8月8日(木)
- ◆ その他： 手話通訳、要約筆記、一時保育の申し込みは8月8日(木)までをお願いします。



《問い合わせ》主催：三田市人権を考える会(事務局：人権共生推進課) TEL: 559-5148 FAX: 563-7776
 後援：三田市・三田市教育委員会



講話の様子は市公式YouTubeチャンネルから視聴いただけます。

感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。

人権さんだアンケート



8月21日(水)～27日(火)は「こどもの人権相談強化週間」として相談受付時間を延長しています。

(相談ダイヤル) *全国共通・無料
TEL 0120-007-110

平日は午後7時まで延長し、土日も受付しています(土日は午前10時から午後5時まで)

(問い合わせ先) 神戸地方法務局人権擁護課 TEL 078-392-1821(代表)

こどもの人権相談
相談無料 24時間受付 午前9時30分～午後5時15分
0120-007-110
毎月1～3日(祝日も)

令和5年度 人権ポスター・標語受賞作品



みつけよう わるいところ
ゆりのき台小学校2年(前年度) 新谷 周さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)
専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)
TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)
※専門相談員との相談日は予約後に調整
人権擁護委員会による定例人権相談(予約)
TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》8月22日(木) 13時～16時

差別のない未来へ

すずかけ台小学校 PTA 中田 英一さん

「みんなと同じようにちゃんとしゃべってダメ」私が子どもに向けてしまっただけで胸に引っかかっていた言葉です。「児童クラブに少しでも早くお迎えに行っておきたいけれど、仕事が片付かず毎日ギリギリになってしまっただけの思いをさせているんじゃないか」「自宅に帰って一緒に宿題や遊びをしてあげたいけれど、夕食やお風呂の準備に追われ思うようじゃありません」「早く寝かしつけなければいけないが、なかなか言うことを聞いてもらえず遅くなってしまふ」…反省しない日はないというくらい追い詰められた日々、「自分の子育てでは間違っているんじゃないか」という不安や自分の無力さを感じる中で、周りがどんどん見えなくなり子どもを叱るようになって出てしまった言葉でした。

差別をしてはいけない

誰もがわかっていられるにもかかわらず、

「みんな一人ひとり違うのにみんなと同じように？」子どもからすればとても不可解な言葉だったかもしれません。親の不安を子どもに負わせ、一定の枠からはみ出ないことを求めてしまったのです。そんな言葉を浴び続けると誰かが決めた枠からはみ出すことが「悪」だと考えるようになり、差別への土台が作られる瞬間ではないかと感じます。

私に反省のきっかけをくれたのは、お迎えがたびたび一緒になる保護者さんでした。何気ない会話の中で同じような悩みを抱えていることを知り、一人で、家庭で抱えていた不安が軽くなると同時に視界が開けた気がしました。

令和5年度
ラブピース4コマまんが受賞作品
「伝えよう あなたの気持ち」



三田小学校6年(前年度)
大西 由夏さん

依然として差別がなくならないのはなぜなのでしょう。私は、大きく二つ、暴力と同じように相手を傷つけるために敢えて使う場合と、無意識的に引き起こしてしまう場合があると思います。

まず、一つ目の原因をなくすためには、根底にある怒りの感情をコントロールする、あるいは怒り自体が起こる原因を少なくする必要がありますが、私たちPTA世代を見れば、校家族・共働き世帯も多く、家事・育児・仕事といったダブルワーク・トリプルワークが当たり前となり、ますます複雑化する社会のなかで私のように怒りを抑える「ゆとり」や、視野を広げて他人に頼る心をなかなか持てなくなっているような方がいるのではないかと感じます。私もきっかけを与えてもらわなければ、不安や自己嫌悪からさらにエスカレートして他人を攻撃してしまうような状況に陥ってしまっていたかもしれません。様々な苦労や悩みを持つ親やその苦しみを経験した地域の人々が集うPTAは、互いに共感し助け合うことのできるプラットフォームの1つとして、「ゆとり」や「視野」を取り戻す機会につながる団体であり、その可能性を高めていきたいと願っています。

次に、二つ目の理由として、無意識の差別や私が反省している言葉のように気づかないうちに子どもの頃から差別的な思考が刷り込まれているということがあっても、効果性を求めるために画一的な枠からはみ出す者への冷やかな視線を感じる機会が多くありました。しかし、学校とかかわるようになって感じたのは、登校のリズムや校内での過ごし方でも、大人にとって都合の良い画一的な指導ではなく、多様化する子ども達の生活スタイルに教職員さんや地域の方、保護者など、多くの人が関わり、連携をとりながら子どもを尊重して下さっているということでした。

これまであまり見えていなかった嬉しい光景に、一人ひとりを尊重し多様性を認め合う未来に向けて確実に社会が良くなっていることを実感できる貴重な瞬間を感じています。

子ども達の好みやリズムに合わせたリ、どんどん個人に光を当てていったりすると「子どもや保護者を甘やかせるな」「個人主義が進んで良くない」と言われるかもしれません。しかし、それは「個人個人が好き勝手にして許される社会」や「放ったらかしの社会」をめざしているものではなく、子どもの居場所や人のつながりをもっと多様かつ多層的に構築され、その中で個性が認められ互いに思いやる仕組みをつくることでできれば、いっそう複雑・多様化するこの時代であっても、差別を著実に減らし、かけがえのない個人の権利・人権が傷つけられることのない社会に近づいていくと確信しています。

これからもPTAの立場から、差別のない未来に向けて仲間や子ども達、地域や教職員の方々と共に、多様な居場所やつながりを1つでも多く作っていきけるよう取り組んでいきたいと思えます。